

2024年9月3日

第7回全国地区ローターアクト委員長及び地区ローターアクト代表合同会議
報告書

1. 日 時:2024年8月4日(日)13:30~16:30

2. 場 所:AP日本橋 6階

東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 6F TEL:03-3273-3109

次 第

13:30 開会

13:30~13:40 開会あいさつ・RI方針

RI理事 水野 功(D2750)

13:40~13:50 モンゴルでのRA奉仕活動

渡辺浩子(D2530RA 委員長)

13:50~14:00 効果的な奉仕活動:D2610 能登半島地震ボランティア

和田 康佑(D2610RA 代表)

14:00~14:05 グループ討議を行う前の説明

向井 蓮(D2720RA 直前代表)

14:05~14:35 (区分グループ編成)「エレバート RA」に向けての実施の現状共有

(対面参加:グループ編成表を当日受付にて配布いたします)

(ZOOM 参加:ホストよりブレイクアウトルームにご案内します)

14:35~15:05 (区分グループ編成)エレバート RA ガイドライン策定について

グループ編成:変更なし

15:05~15:20

休憩

15:20~16:00 (合同グループ編成)エレバート RA ガイドライン策定について

16:00~16:30

グループ*3分

グループ討議結果発表(代表者任意)

16:30 閉会

RIJYEM 副理事長 片山 勉

■開会あいさつ・RI方針 RI理事 水野 功



皆さん改めましてこんにちは
大変暑い中、全国からお集まりいただき、また Zoom でご参加の方々大変ありがとうございます。
少しご挨拶をさせていただきたいと思っております。まずは第7回全国地区ローターアクト委員長および地区ローターアクト代表合同会議がこのように大勢の方に集まっていたいただき、開催されますことを私自身大

変嬉しく思っております。

まず最初に RIJYEM との関係ですけれども、ご存知のように RIJYEM が青少年交換の保険のためにまずできて、法人格を持ってできたわけですけれども、2019 年にローターアクトの立場が変わり青少年プログラムから抜けるということで、保険はどうなるのかということで、そのためにいちど全国のローターアクト委員長、そして我々 RIJYEM がプラットフォームになって会議をしました。

そのときにこの会議をもう少しやってほしいと、ローターアクトクラブとロータリークラブとの間の関係について、もう少し議論を進めていただきたいというお話がありまして、このような形でプラットフォームとして今事務局機能を果たしているということで、今日に至っております。そのことをまず皆さんに再度確認をしていただきたいと思いますと思っております。繰り返しになりますが 2019 年の規定審議会におきまして、修正動議でローターアクトの立場が青少年プログラムから外れ、国際ロータリーの構成要員となって今日に至りました。

2019 年 7 月からマーク・マローニーさんが、今年度のロータリー財団管理委員長が RI 会長でございましたけれども、ローターアクトの地位向上タスクフォースを設置し、人頭分担金の検討、これは金額と時期、財団プログラムのローターアクトの参加、等々についてタスクフォース委員会を立ち上げました。その後いろいろな規程あるいは理事会の決議を経まして、今言ったようなことが決まって今日に至っております。

ただ皆さんに考えていただきたいのは、2019 年の 12 月を憶えていらっしゃいますか。コロナですよ。武漢でコロナが発生し、2020 年の 2 月に私ちょうど国際協議会から帰ってきた時だったのですが、横浜港のクイーンエリザベス号が感染病船になってしまいましたけれども、それから 3 年間、経済・社会活動ともに大変な制限を受けました。ロータリーもその例外ではありませんでした。休回を決めるクラブ、あるいは ZOOM をいち早く入れたクラブ、あるいはハイブリッドするクラブ、そこに至るまでかなり混乱をしましたし、その間ロータリーを離れる方々が大変多い状況でありました。

昨年の 7 月 1 日現在では、長いこと 120 万人というふうにロータリアンの会員が言われていましたけど、なんと 115 万人ということで 5 万人減ったということでもあります。この 2024 年 7 月 1 日に私は実はいろんなところで、緩やかな回復をして、少し増えたのではないかということ言っていたのですが、実は案に反しまして 7 月 1 日現在では 115 万どころか 113 万人になってしまったということでもあります。それから日本も 8 万 4000 人ぐらいいくのかなと思っておりましたら 8 万 2000 人というぐらいで微減という形になりまして、会員の減少には歯止めがかかっていない状況にあります。

私が言いたかったのは、2019 年にこのことが決まってから、3 年間の間にロータリークラブとローターアクトクラブの間と、総合コミュニケーションと立ち位置の確認を本来すべきだったというふうに思っております。しかしながら先ほど言った経済社会状況の中でその議論がほとんどできないで今日に至っているというのが本当のところかなと思っております。

私の手元には日本事務局からクラブの新設クラブ、それからクラブを辞めたという報告が毎月のように来るのですが、つい最近来た報告の中でローターアクトクラブが 10 ぐら廃止になっている報告が来ております。これはいろいろな問題がありますけれども、会員数が少ないクラブ等々が、限界的にやってきたところが音を上げてしまった。分担金のこともありますし、それでこういう形になったのかなというふうに思っております。

昨日、実は今日何を話そうかなということで、ロータリー章典を見て来まして、皆さん方もご覧

になったかと思いますが、ロータリー章典の第2章にロータリークラブというのがあり、第12条にはローターアクトクラブについていろいろと書かれております。詳しくは後ほどぜひ読んでいただきたいと思うのですが、その中で一つだけちょっと今日に関係するのでお話ししたいのですが12条の110にローターアクト指導者育成研修についての記載があります。

スポンサーロータリークラブによる研修および支援についてということで、「ローターアクトクラブが効果的に活動できるかどうかはスポンサークラブの指導・支援・積極的な参加にかかっている。ロータリアンはローターアクトクラブ役員・理事・委員長の研修に関与するべきである」とされております。また「スポンサーロータリークラブはスポンサーしているローターアクトクラブのローターアクターのためにロータリアンをメンターとして任命するべきである」という記載があります。

それからその次のところに12条110.2 ロータリー地区による研修および支援の一項に、「ローターアクトクラブが効果的に活動できるかどうかはロータリー地区からの支援にかかっている。地区ローターアクト代表は、地区ローターアクト委員長、地区研修リーダー、地区ガバナーエレクト、地区ガバナーと協力してローターアクト研修セミナー、その他の地区行事の計画段階において、ローターアクトの研修ニーズを強調するものとする。

2項では、地区ローターアクト代表は奉仕を奨励し、国際理解を深め、専門的能力を高め、友情と繋がりを築くためにローターアクト地区大会を計画すべきである。

可能な場合、ローターアクト地区大会はロータリー地区大会に付随して開催し、少なくとも1回の合同セッションを開催すべきである」というふうにされております。

実はこういうことを受けまして、私の地区も含めて全てこのようなことをやっているかどうかと私自身も自信がありません。実は先月の20日にロータリーコーディネーター、それからARCコーディネーター補佐の方、アクションプランチャンピオン行動計画推進リーダーの方々とオンラインで違う件のセッション、ロータリー研究会のセッションについてのZoomミーティングをしました。

終わった後に、このローターアクトのことについて今後の進め方ということで、ロータリーコーディネーターの方々にお願いをしたのは、GELSが9月の初旬にあります。その終了後に地域ごとに、まずはロータリアンガバナー、ガバナーエレクトとそして各地区の各クラブのローターアクト委員長を含めて現状把握を踏まえた上での議論をしてくださいと・・・

まずは現状把握を、もしかしたらアンケートをしてくださいということをお願いしまして、これは一、二、三地域ともにやってくださいという話をしております。その結果を踏まえた上で、今度はローターアクト代表がでた会議を持ってくださいというお願いをしております。

皆さんの頭の中にちょっとそのスケジュールを入れておいていただいて、まずはこの失われた3年といいますか4年といいますか、そこを最初にセットバックして、きちっとお互いの立場を理解した上で、今後進めていきたいというふうに思っております。

今日のセッションの中にはローターアクトの地位向上というような分科会が予定されていると思いますが、ぜひその辺を踏まえながら、議論をしていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。ちょっと長くなりましたけどもご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

■モンゴルでの RA 奉仕活動 D2530RA 委員長 渡辺浩子

皆さんこんにちは。2530 地区福島の渡辺浩子と申します。ローターアクト委員長 3 年目となります。



パウポを作ってきました。
3 ヶ月前になります、アクトとそれからロータリアンでモンゴルに行
ってまいりました。この資料だと、奉仕活動ってなっていますがその
前の段階の視察調査ということで、行ってまいりました。


その経緯を説明します。当地区の財団地区補助金で地区委員会の枠
というのがありまして、そのプロジェクトの募集がされました。なか
なか珍しくてその前も今年ももうないのです



けれども、それでアクトと相談をしまして
元々モンゴル出身の米山奨学生からローター
アクターになったというのがありまして、
本国のローターアクトと繋がりがあって、そ
こでいろいろやり取りをするうちにモンゴル
のローターアクターがいじめ問題、教育問題
に取り組んでいるということが分かりまして、
何かできることはないかということでそれを
申請したわけです。

グローバル補助金を視野に入れるということで、旅費交通費も対象になるということになりま
して、この下のプロジェクトが採択されました。金額的には 120 万円を地区補助金からいた
だきました当初 40 万円ってということで申請がしていたのですが、他の地区委員会がいろいろと
合致なくて、その分がこちらに回ってきたということです。

しかしそのままではいけないのでロータリアンからは 1 人 20 万円、アクトは 10 万円でプロジ
ェクトを組みました。今回大事にしていたのが、お互いの調査に行くということであれば日本

Rotaract 

R財団地区補助金の地区委員会枠でプロジェクトを募集

▼

アクトと相談⇒モンゴルのRACが教育課題(主にいじめ)に取り
組んでいる。双方の現状を理解しその解決策を共有するこ
とは、日本の課題解決にも結びつくと考え立案し申請。
※グローバル補助金申請を視野にいれる企画ということで旅費交通費が対象となる。

↓


**日本・モンゴルの「教育課題」共有を目的とする
モンゴル視察と現地調査プロジェクト採択**

地区補助金額：約120万円
自己負担：ロータリアン20万円・アクト10万円
(航空券・ホテル・食事・会場・バス)

のいじめ問題をしっかり学んで意見交換が
できなければいけないだろうということ
でそれを学ぶ。

それから、ロータリアンの参加は最小限にし
たいっていうのをすごく大事にしました。

といいますのは、ロータリアンの皆さん、大
変人脈など経験も豊富で「モンゴルに行くの
か、そしたら、誰々を知っているからその伝
手でここに行って・・・」みたいに指導がロータ
リアンから入ってしまうのですよね・・・。

今回のプロジェクトにあたって Rotaract 

- ◎ 事前に日本のいじめ問題を学ぶ
- ◎ ロータリアンの参加は最小限に
- ◎ 視察調査内容、スケジュール等企画はアクトに任せる

※目的から外れないように随時チェック

プロセスを大事にしたかったので、ロータリアンの参加は地区委員とスポンサークラブの数名ということにして、たくさん手が挙がったのですが、お断りをさせていただきました。調査内容、それからスケジュール企画はアクトに任せました。基本はモンゴル出身のアクトにおまかせをしました。ツアー会社も入れず、全て個人手配で、バスそれから会場、ランチ、全て現地のアクターといろいろと人選も含めてお願いをしまして、1 から全てやってもらいました。

私は、随時報告を受けて目的からずれないようにだけチェックをしておりました。今日、片山さんもいらっやっていますけど、途中で 2660 地区がグローバル補助金が採択になったもので同時期にいらっやるっていうことがあって、同席をして、私達がセットしたものに、2660 地区もいらっやるっていうことで、どちらかという交流にかなりと重きが置かれそうな雰囲気があったときだけチェックを入れまして、目的は視察調査なのでということで、そこを修正してもらいました。

Rotaract 



3/10 事前勉強会

まず事前勉強会ということで、ストップいじめナビ NPO の須永さんをお呼びして、日本の現状を聞きました。日本の現状もマスコミで聞いているのとは全く違ったことが多くて大変勉強になりました。オープンなものにしていたので、一般の方それから学校の先生方もたくさんお見えになって大変有意義でした。この後 Zoom で D3450 モンゴルの方々とミーティングしました。

Rotaract 

視察1日目 8:00~18:30



日本・モンゴルのアクト、ロータリアンの活動紹介

専門家7人を招いて教育の現場を聞き意見交換

これがもう、既に入っている状況ですけど軌道修正したのですごく綿密なスケジュールになって 8 時間、朝 8 時から夜の 6 時半までびっちり調査とか日本のアクターの活動紹介であったり、左下は教育専門家を招いてプレゼンをしていただいて意見交換もしました。この右下は全く自由時間が 3 泊 4 日全くなかったもので、カシミヤを売る業者さんをこの会議室まで呼んで、その昼間のときだけカシミヤを買うというふうな、それぐらい大変忙しくてあとはどこにも行けませんでした。

Rotaract 

視察2日目 23番校訪問



これが 2 日目で 23 番校ということでこれは私立高校ですね。ここでは、インターアクターが全てプレゼンしてもらって学校の様子などを紹介していただいて、いじめ問題であ

ったり学校の校則の問題とか、いろいろ紹介していただきました。ここにもローターアクターが全て同席していただいて、一緒に視察をしました。



もう一つ、これは国立ですね、これは 24 番校の方に行きまして、ここは主に先生がいろいろお話をしてくださったのですが、これがうちのローターアクトのアナラくんという左下の彼の母校の視察をしました。

これはロータリーと共同で行っているストップいじめ啓発ポスターということでやはりモンゴルでも大変問題になっているということでロータリーが先導してインターアクトが先導してローターアクトが協力して、ポスターなど啓発活動しております。



全体的にその専門家を呼んだときのお話なのですが、やはりもういじめどうのこのの以前にやはり教育環境の大変な国としての問題があって、例えば、この二つの学校もそうですが、1000 人の定員のところに 3000

人の生徒が通っておりまして、小中高ですけど、2 部制だったり 3 部制だったりするのです。そうすると、午後から来る定時制みたいな、そんな生活をしているとそういうことになるとやはり教室も足りないということで、化学の実験を一生のうちに 1 回しかやってないって子供がたくさんいます。教室がなくてできないということですね。やはりあとはヤングケアラーがたくさんいたり、親が大変仕事で遅いので、全くその時間が取れないということで、やはりその教育問題、その元々の国の問題が大変あるということでたくさんいじめ問題でもあったのですが、印象的なのはいじめをした側のいじめをした子供の両親に罰則を与えるという法律ができそうだという話で、それは賛否両論あるようです。




これ最終日ようやくモンゴルらしい風景になってきましたけれども、交流をして、日中がびっちり視察調査だったので、もう夜だけしかはしゃげなかったという感じです。



彼が全てマネジメントでこのガラさんですね。有名な今度この方が青少年奉仕副委員長のアリさん。左側に片山さんも写っております。

印象的だったのはやはりモンゴルのプロジェクトが、ロータリアンであろうとローターアクト、インターアクトとのコラボがデフォルトで、どこからの発案でもみんなが協力しているということ。

印象的だったこと 

- モンゴルのロータリアン・ローターアクト・インターアクトはコラボ事業がデフォルトどの位置からの発案でも協力、協働している印象 それぞれの立場を活かすから、展開が多彩になり効果的
- 3着が、距離が近く自然に共にある という関係性
- 身近なボランティアというよりは、社会問題や病院・団体を巻き込む大きな奉仕事業が多い
- アクト数名で会社を立ち上げ奉仕活動（小児科病棟のリノベーション）
- プロジェクトのネーミング、ロゴの完成度が高い
- プレゼンテーションスキルが高い（慣れ・効果的な見せ方）

*ほぼ自由行動がない3泊4日の視察ツアー。大渋滞中の車中で、あるいは交流会でウォッカがふ飲みしながら、私たち13人はたくさん話し、お互いを知ることができた。今後のモンゴルとも協働もさることながら、それが大きな成果であった。

距離が大変近いってということ、アクトたちが大変アクティブで、一緒に会社を立ち上げてもう少し活動をしたり、それからプロジェクトのネーミングとかロゴの完成度が高いということですね。あとはプレゼンテーション慣れしているので、大変その社会的にもとても効果的なことをしているなというふうに思いました。

自由行動がないので大渋滞で時速 5 キロぐらいでしか走らないですけど、それが交流会の時とか、ウォッカを飲みながらすごくたくさん話して、お互いを知ることができたというのが、やはりこれからたくさんの共同とか、奉仕活動が増えていくんですけども、その距離が縮まって、お互いの考えを知れたというのがやはりかなり大きな成果ではなかったかなというふうに思います。



モンゴルで大いなる刺激を受けた D2530アクトの今後にご期待ください


ご清聴ありがとうございました

ロータリアンも協力して頑張ります！

まだ、今何をするかみんな考えているんですけども、何かいい報告ができたらいいなと思います。全ての資料を持っておりますので、いろんな細かいことが気になる方はいつでも送りますので、お声掛けください。駆け足でしたが、以上です。ご清聴ありがとうございました。

■効果的な奉仕活動:能登半島地震ボランティア D2610RA 代表 和田 康佑

2024年8月4日

Rotaract 
第2610地区

**「令和6年 能登半島地震」における
第2610地区 R A ボランティア活動報告**

第2610地区（富山・石川）ローターアクト
地区ローターアクト代表 和田 康佑

皆さん改めましてこんにちは。
2610 地区富山石川の地区ローターアクト代表しております和田康佑と申します
これだけ大人数の中でちょっと喋るのは久しぶりなのですごく緊張していますが温かい目で見ていただければなと思っております。

「令和6年 能登半島地震」における
第2610地区ローターアクトボランティア活動報告

中島地区への支援物資プロジェクト
(第2610地区ローターアクト)



六水町復興支援ボランティア
(金沢県ローターアクトクラブ)

七尾市旧中島町復興支援ボランティア
(金沢県 & 金沢ローターアクトクラブ)

早速 2610 地区の能登半島地震におけるボランティアの活動報告をさせていただきます。
2610 地区のローターアクトのボランティア活動報告ということで、これ一番上にあるのは中島町という町が能登半島のちょうど中腹ぐらいのところにあります。
中島地区への支援物資プロジェクトということで、これを行ったのはもう地震起きた 1 月 3 日とかの話です。うちの近藤パスト代表が同期代表の 2600 地区長野、2610 地区岐阜三重パスト代表と連携して、地震が起きて

からすぐにこういう支援物資を持って駆けつけてくれました。地震が起きると皆さんこういう

ポリタンクとかトイレトーパーとか、ブルーシートとかは近所のホームセンターですぐなくなってしまうので、こうやって岐阜からこれだけのものを持って走ってきてくれたっていうことは、すごく地域の方々に喜ばれることとなりました。

二つ目はですね穴水町の復興支援ボランティアということで、これ穴水町は奥能登の方になります。これは1月の中旬ぐらいですね、15日とかそれぐらいだったと思いますけれども、石川県の災害対策本部からの募集を受けて行ってきました。もう本当に地震がまだ起きたばかりなのでこういう神社の壁とかが全部壊れてきているので、ブルーシートを張る作業をさせていただいて被災地域の惨状というかそういったところを我々地区のメンバーで目の当たりにすることができました。

これを受けて我々としてもできることをやって、考えてやっていこうという決意を新たにしたいのを覚えています。



三つ目はこれ七尾市の中島町の復興支援ボランティアです。これも地震で崩れた家にお邪魔して、こういった土壁が全部崩れてきているのでそれを細かく砕いてダンプに積むという仕事を1日ばかりしてきました。能登はお年寄りの方が多いので、こういった人手も不足しております。あとはですね、こういう災害ゴミの受け付けが当時は3日にいっぺんぐらいしかしてなかったもので、この辺りの災害ゴミの受け入れ体制というのも行政の課題であるなというふうに感じた次第です。



三ページ目はですね、富山の砺波ローターアクトクラブというところの活動報告です。災害時の支援物資の調達管理ということでこういった飲料とか食品の物資の管理というものをさせていただいたり、この飲料水の提供補助、あとは避難所の住居スペースを土足厳禁化しようということで清掃したりとか上住居スペースを拡張する作業というものをさせていただきました。

あとは、こういう地震で起きた瓦礫の処理だったり家財の搬出というところだったり、これも避難所ですけれども、清掃したり簡易ベッドを増設したりという作業をさせてもらいました。あとやっぱり飲料水の運搬提供。この辺りをさせてもらっています。

四ページ目ですけども6月7日これも中島町ですけども、現地でボランティアをしてきました。これは2580地区東京北部沖縄ですね。

嶋村パストガバナーとうちのパスト代表の近藤さんが懇意にしているということがあって2580地区の嶋村パストガバナー、瀬下さん、菅原さんが能登に来られるということで、こっこのアクトのメンバーも来られる方は是非ということで平日ですけども、仕事を休んでですね、五、六人のメンバーが集まって一緒に作業をさせてもらいました。

そのときに2730地区宮崎鹿児島島の勢井さんも来てくれまして、そのときに気づいたのはですね、キリンさんという名前で音楽活動をされているんですけども、僕は復興支援っていうのは、こういう壊れた瓦礫を処理したり力仕事をするのが復興支援であるというふうには思い込んでたところがあったんですけども、やっぱり現地の人の話を聞くと、そういうハード面の作業だけじゃなくて、心のケアというソフト面というのがかかなり重要になってきているということで、チャリティーコンサートをやっている勢井さんの姿を見て、僕たちとしてもハード面

だけではなくてソフト面も知恵を絞って、両輪で復興支援ボランティアを行っていく必要があるなというふうに改めて感じさせてもらいました。

あとは、2770 地区埼玉南東ライラ委員会の方から話をいただいて 6 月 15 日と 16 日に埼玉南東のライラ委員会様に石川県の方に来県いただきまして、打ち合わせおよび現地視察というものを実施しました。

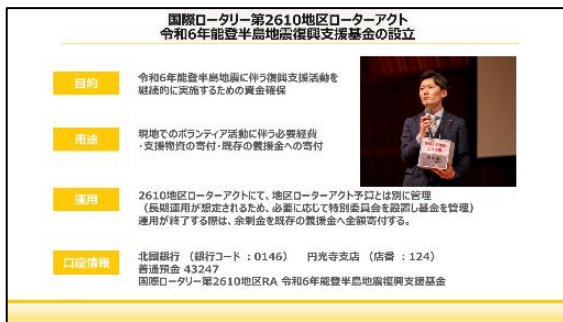
恥ずかしながら 2610 地区にはライラ委員会がなく、ライラの文化がないのでこういった活動を通して、その辺りも当地区として勉強させていただきたいなというふうに思っております。



全国友好地区からの善意ということで、これだけの地区の皆様から年次大会で募金ボックスを設置するので受け取りに来て少し能登の現状について話をしてほしいということで温かい言葉をいろんな地区からいただいています。2590 地区、2840 地区、2770 地区、そして 3 月に行われた山形での全国ロータリーアクト研修会でもそういった被災地支援の募金をいただいております。あと 2710 地区、2790 地区、2510 地区の皆様からこういった声をいただきました。

私達としてもこうしていただいた善意というか温かいお気持ちというのをしっかりと形にしていくために、能登半島地震の復興支援基金というものを 2610 地区で立ち上げさせていただきました。この目的というのは能登半島地震復興に伴う支援活動を継続実施するための資金として使わせていただきます。

用途としては現地でのボランティア活動に伴う必要経費、支援物資の寄付、既存の現金の寄付というものを考えております。



例えば我々が能登にボランティアに行くときにかかるガソリン代とか土嚢袋とか軍手とかそういったものを購入するための資金とさせていただきます。運用としては当然 2610 地区ロータリーアクトにて地区ロータリーアクト予算とは別に管理をさせていただきます。このあたりは長期運用が想定されるので特別委員会を設置して基金を管理しております。「必要に応じて」って書いていますけど、もう

既に特別委員会というのは設置しています。運用が終了する際ですね、余剰金というのは例えば石川県とかそういった既存の義援金に全額寄付する予定です。

口座情報は以下の通りになります。



最後は PR です。2610 地区のロータリーアクトでアクトの日の活動でこういったことを企画しています。

ツエーゲン金沢 VS カマタマーレ讃岐という J3 の試合がありますが、この会場で令和 6 年能登半島地震の募金活動を行う予定です。これは奉仕活動だけじゃなくて、例えばですけども入場口の案内係とかボールを出すボ

ールパーソンとか、そういった試合運営のボランティアも全て当地区のローターアクトでツエーゲン金沢と連携して行いますので、もし皆様の中でちょっと金沢に来てこういった取り組みに参加したいという方があれば、ぜひよろしくお願ひします。簡単ですけど以上です。ありがとうございました。

■グループ討議を行う前の説明

D2580RA/RIJYEM 研修部門委員 鈴木宏美

D2720RA 直前代表 向井 蓮

はい。改めまして皆様こんにちは

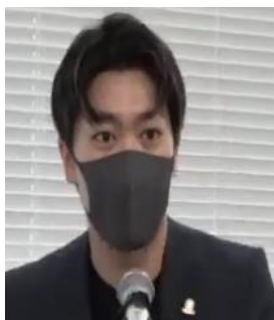
本日のプログラムのサポートをさせていただいております RIJYEM 研修部門委員 2580 地区東京北部沖縄の鈴木宏美と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。



本日のメインプログラムですけれども、まずちょっと経緯のご説明からさせていただければと思います。今年 3 月に開催をいたしました 2800 地区山形の全国ローターアクト代表者会議で、本日次第に載せさせていただいておりますエレベーターアクトガイドライン策定についてというところで、ガイドラインを策定することがローターアクトの方から必要だというお声があり、こちらがまず決議されております。ローターアクトでは現在年に 1 回全国ローターアクト研修会にて代表者会議を行っておりまして、「やはり年に 1 回の会議ではな

なかこのガイドラインの策定は至らないよね」というご相談をいただきまして、起案者でございます 2720 地区パスト代表の向井さんの方からご相談いただきまして、今行っているこの年の 2 回の合同会議にて少しずつディスカッションができればという形で本日会議の準備をさせていただきました。ガイドラインの策定につきましては、まず経緯と趣旨の説明につきまして、向井さんの方からお願ひできればと思いますのでよろしくお願ひします。

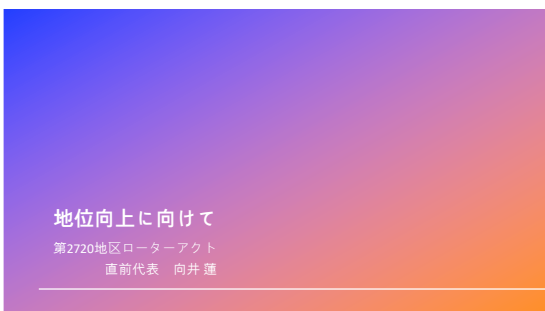
皆さんお疲れ様です。2720 地区の地区直前代表の向井蓮と申します。前回の RIJYEM でも前でお話させていただいたのですが、今回は地位向上に向けてというお話をさせていただ



なければなど…。あとディスカッションをさせていただきたいと思っています。先ほどご紹介もあった通り本日は、6 月に行われました臨時代表者会議で承認された「ローターアクトの地位向上に向けた共通目標」というところで、今回ディスカッションのお時間を段階的にいただきました。

まずそのことについてありがとうございます。

と言いましても、まだまだ皆さん地位向上のことについてご理解いただくまでにはかなり時間がかかるかなと思っておりますので、まずはご理解をいただけるように、その体制作りと方向性について意見交換から始めていきたいというふうに思っております。



それですね、皆さん、「地位向上」って言葉を聞いたときに何を思い浮かべますか。中にはグローバル補助金だったりいろんな面で動き出している地区もあると思いますが、その中でも「ローターアクトの自立」という言葉がよく出てきます。

その自立ってそもそも何なのかというところで、これはロータリーの方々からよく出てくる言葉ではありますね。



地位向上

- 自立?
- ロータリーからの独り立ち?
- 予算はどうか?

どのようなものを持って、ローターアクト自立とされているのか、ロータリーとローターアクトのそれぞれが、ローターアクトの地位向上についてどのように考えているのか。双方の意見を考えあって出していきたいというふうに思っております。私達ローターアクトは地位向上とはRIがどうしてこのようなものを打ち出したのか。

まずはそこをしっかりと捉えて理解する必要があります。当地区の三村ガバナーは地区戦略計画によって、今年度ローターアクトの予算を大幅に増額していただいております。

第2720地区ローターアクトの可能性と課題

- ・今年度の予算は昨年度よりも大幅にアップ（資金）
- ・台湾との交流（みんなに示しやすい活動）
- ・RACサポート委員会との協力で基盤作り（持続的な組織作り）
- ・代表ノミネーまで決まっている。

- ・予算をもらって終わりになっていないか
- ・その成果はどのように出していくのか

しかしながら、そのガバナーを始め地区戦略計画の若者の寄り添おうと掲げてくださっているバストガバナーたちの思いを、ローターアクトがどれだけ理解しているのか。そしてただ、活動費をいただいて終わっているのではないのか。その成果をどのように出していくのかというところをしっかりと考えていく必要があるというふうに思っております。



興味を持ち、
学ぶ、
若者の力、
アイデアで

世界でロータリーが行なっていることであったり、たくさんの方にまずは興味を持ってたくさん学んで、特に地区代表であったりとか地区役員の皆さん、クラブの会長幹事さんは、その自分の立場というかその自分の魅力を出しやすい立場でもあると思うので、その自分に合ったやり方であったり、方法であったりを持ち寄って地区の魅力、クラブの魅力

を最大限に生かしてもらいたいなというふうに思っております。若い目線でインパクトもたらして参加者の基盤を広げていくことが必要なのかなというふうに思っております。それと自分の地区のメンバーや、ロータリアンのことを尊重しながらその人の立場になって、物事を捉えて、そして協力して組織の基盤作りっていうのもしていく必要があると思います。

今日の目標

- ローターアクト
 - ・各地区の現状把握
 - ・RIがどうして「地位向上」を打ち出したのか
- ロータリー
 - ・「地位向上」についてどんなイメージを持たれているか。

ロータリアンの皆様にはローターアクトの地位向上について具体的にどのようなイメージを持たれているのか、今日はその話し合いの場としていただきたいと思います。今日この合同会議に集まっている皆様や、Zoomでご参加の皆様のご大半はこの地位向上についてご興味がある方々と思っております。

決して他人ごとではなくローターアクトの全員と、あとはロータリーの皆さんと一緒にこの地位向上を進めていきたいというふうに思っていますので今日は忌憚なきディスカッションとなりますようどうぞよろしくお願いいたします。

(討議テーマ)

- ・Part1:「エレベート RA」に向けての実施の現状共有…Rtn・Rta 別
- ・Part2:エレベート RA ガイドライン策定について…Rtn・Rta 別
- ・Part3:エレベート RA ガイドライン策定について…Rtn×Rta 混合

■グループ討議結果発表

A グループ(D2610RA 代表 和田康佑)

A グループ代表します 2610 地区代表の和田です。発表させていただきます。

ガイドラインとこのこと非常に難しかったのですけれども、簡単にですがまとめてみました。



まず一つ目ですが、RAC、そして提唱ロータリークラブで共同委員会をつくるということです。あとは、RAC-OB・OG を、学友会に所属させてもらって、そういったところも巻き込んでいけばより良い議論ができるのではないかと考えています。

二つ目は、提唱ロータリークラブの RA 委員長が、地区の RA 委員会に出向するという事です。これはロータリーの方だけではなくローターアクターもしっかり地区の RA 委員会に所属していく必要があると思っています。

三つ目は、今言ったことを 3 年計画でやっていくということです。1 年目は共同委員会をしっかり作る、2 年目はそれを軌道に乗せて 3 年目というところで、年間の予算書とか決算書、そして事業報告書をしっかりと策定して、グローバル補助金等にも活用していけるような体力を身につけるということが大事かなと思っています。

ローターアクターのみの議論の中では、それ以外にも、ロータリーからの補助・援助だけではなく、しっかりローターアクターとして、資金を稼ぐことができるような面白いイベントとかスキームというものを作っていくということが重要であるという話も出ました。

そういう面白いイベントを企画してロータリーファミリー以外の方も巻き込んでいくことによって会員増強とかそういう未来にも繋がっていくと考えています。簡単ですが、以上です。

B グループ(D2560RA 代表 小川裕也)

B グループの発表をさせていただきます。改めまして 2560 地区新潟の小川裕也と申します よろしく申し上げます。



まず B グループとしましては、エレベート RA 推進するに当たってというところで、まず 話し合いの中では地区内のローターアクターとロータリーとのコミュニケーションが不足しているところが一つ大きな点でした。

そのコミュニケーションという中でも、年度が始まる前とかに、年度の計画・予算組みとか、そういったところの話から、地区のロータリーとの協議を進めていくというのが必要なのかなという話も出ました。

年度が始まった後、ロータリーファミリーと一緒に活動していくっていうところで、その中でロータリーファミリーという、インターアクトであったり米山記念奨学生であったり、RYLA 等含めて活動していくっていうのも一つ重要なのかなと話し合いの中ではありませんでした。

もう一つあったのが、エレベート RA というところで、樋口直前ガバナーから一つ話もあったのですが、今 RA とロータリアンと関わっていく上で、ガバナー月信 っていうのもあって、その中で一つ、樋口直前ガバナーの課題では、ガバナー月信を PR 動画化してやってくってというのは一つあったそうです。

それも RA によろしくというふうな企画を投げてとてもいいものができた。その出来たものが地区内のロータリアンにも大変刺激になったというふうなお話もありました。そういったところの中でも運営面だとか PR 活動というのも RA が一緒に参加していくのも一つのエレベートのあり方なのかなというふうにも思いました。

そういった地区内の中でもう一つあったのが、地区内の RA 単位の教育も一つ重要なのかなというところで、RA ハンドブックであったり定款・細則を地区代表ないしは会長幹事たちが、地区内の会員に対して教育活動をしていくというのも一つ重要なところかなというふうな話がありました。はい簡単ですが以上となります。

C グループ(D2600RA 代表 松澤幸太)

こんにちは2600地区RA代表の松澤幸太です。よろしくお願いします。最初にエレベートRAについて知らないという方が多かったです。知る機会の場所を設けるなどしてやっていくと。



そもそもその地区ごとに、引き継ぎがされてないという地区が多いので、まず何をしたらいいかっていうのがわからないので、知る機会、講習の機会を作るなどして、立ち戻る場所を作っていく。

またはカスタマーサービスみたいな Q&A を、ネット上に作って、このときはどうしたらいいかななどを Q&A 方式でしてみたらいいのではないかなという案が出ました。

最終的には、目標に向かって何をやって行くかを決めて、地位向上のためにステップ段階を踏んで進めて行く事になりました。

D グループ(D2840RA 代表 清水 大)

D グループ発表します。2840 地区群馬県地区代表の清水 大と申します。

地区 RA 委員会に入ってくださいと委員の方々を、提唱ロータリークラブの委員長さん方を入れて取りまとめていただくと、ローターアクトクラブ、ロータリークラブの 共有がされていくっていうことを一番に、RAC というものをもっとより知ってもらう、連携を取ってやっていければ一番いいのかなという話が出ました。



また入ってもらう RAC の年齢制限に関しても、各 RAC で決めていくってということも一つですが、まず一番大事なことは同格っていうことは、中核的な価値観を共有する。

ロータリークラブが提唱しています四つのテスト、その中核を担う方が RAC に入ってもらってというようなことで年齢制限は、一概に決めなくても多様性を持って、RA をやってみればという話が出ました。

RA の地位の向上ということに関しては、地区の補助金を使ってイベントできるような体制で予算立てをして、ちゃんと決算報告ができるっていう組織であるということの証明をしていくと良いのではないかという意見が出ました。

E グループ(D2750 地区 RA 委員長 田中 智)

こんにちは。今 RA の皆さんが発表している中で私が前に立つは大変恐縮なのですが、一応 RI 加盟クラブになったということで同等の立場ということで立たせていただきます。



E グループの話し合いの中では、まずガイドライン策定に向けて RA とロータリー側の懸念事項をまずは挙げさせていただきまして、RA の最も懸念されていることは、同じ目線で議論が今後できるかどうか、現時点ではできていないと感じているというお話がございました。

またロータリークラブでは、現時点でコミュニケーション不足、大変様々なところで言われていると、このコミュニケーション不足はどういったことかという、結果的に一緒に活動する機会が少ないのじゃないかという話が出ておりました。

そういったことを前提としてガイドラインを策定するにあたって、いくつかアイデアが出ましたのでその点を紹介させていただきます。

まず同じ目線で議論をするためには、現在組織図としては RA の地位向上様々な地区で議論をされていて、実際に上がっていると感じられていますが、実務的には議論がされていない、というところで、まずガバナー補佐的な役割だけではなくて、結果的に代表が RA としての意見をガバナー、もしくは地区に対して言えるような環境を先ず整えていただきたい、ということとこういったことをガイドラインに入れて盛り込んでいただきたい。という話がございました。

またロータリークラブ会員に対しては、具体的には RA ハンドブックですとか、定款・細則についてまずは読んでいただく、これをガイドラインに設けていただくことによって理解深まるのではないかというお話もございました。

そしてロータリークラブのコミュニケーション不足の懸念に対しては、共同プロジェクトを例えば年一度必ず開催をしてくださいということ、ガイドラインを設けることでコミュニケーションが、少なくとも今以上に活発にはなるのではないかとこのところで話し合いが行われました。

F グループ(D2790 RA 代表 内藤万琴)

はい 2790 地区千葉から来ました代表の内藤万琴と申します。先ほど直前に発表することが決まりましたなかなかまとまっていますが、発表させていただきます。



F グループとしては、まず補助金の制度をアクトが知らないってことで、直近の制度について RA が正しく知り、そして補助金を使った行事を行いその成功例を共有することが重要だなと話しました。

そしてロータリーとの活動での RA が一緒に活動することで RA がいることへのメリットを印象付けることも重要と話しました。

また正しい情報を RA が得るために、My Rotary であったりポータルサイトを利用して、正しい情報を得ること、そしてこういった場でわからない用語が出たときに用語を調べることができる用語集などもあったらいいかなという話を行いました。これで終わりにしたいと思います。

ZOOM(D2600 白鳥敬日瑚 G)

2600 地区ガバナーの白鳥と申します。どうぞよろしくお願いたします。

私オンラインで最初は、7 セッションですかね、第 7、次に 3 ということで二つ参加し、二つのセッションでお話をお伺いしましたけれども大変参考になりました。

まず先ほどの水野理事からですね、RA の経過のお話ありましたけれども、やはり 2019 年からということで、正式に 2020 年からの 7 月 1 日から RAC は、ロータリーのプログラムから RI 構成クラブになったと思うのですが、このときから本当にさっきおっしゃられたようにですね、コロナになってしまってますね、やはりいろんなものが曖昧な状態で動いていたのかなという感じがいたしました。



実際にいろいろお話を伺ってみますとね、今回はガイドラインというお話でしたけれども、そのとき参考になるお話としてご紹介させていただきますと、まず 2770 地区のお方からお話いただきましたが、ガバナー直轄組織でロータリー 5 人、それからローターアクト 5 人ということで、一対一ですね同数にして、そこでいろんなものを話し合うっていう組織になさってるということで、いろんな課題につ

きまして、組織的な対応ができる状態になられてるということであります。

それから現実には、他の地区もそうなのですが、大体 RA の組織からするとサラリーマンそれから学生他ということですが、あとロータリアンの子弟ということですが、大体 3 割ぐらいが大学を中心としたクラブになっているという感じがいたしました。

やはり RA の皆さんが、ロータリーの醍醐味を知ることが重要で、例えば 2660 地区大阪北部は、毎年海外研修をされているということで、今年は 2 月にタイに行かれたということですが、世界を知る、ロータリーの素晴らしさは、やはり世界と繋がっているということでございますけれども、これを感じている方は、しっかりできるんじゃないかというふうに感じました。

ということで、やはりお入りになった方が、これは素晴らしいなと、普通の NPO 法人と違って世界と繋がっているなということ、早くから RA の方が感じていただいて、その意味と価値を知っていただくことが重要で、そのための組織的な展開としますと、やはりガバナー直轄でまずは、現状解析をしながら両方で意見を出し合って新しい構築をするということが重要だと思います。

最後にお金の話でありますけれども、2760 地区愛知の方からお話ありましたけれども、こち

らですね地区分担金が 100 円ということでもありますけれども、地区大会のとき窮しているのが、地区大会は 1 万 4000 円登録費ですが、地区分担金が 100 円ということでもありますけれども、アクトは、2 分の 1 ということですが、これについてもやはりいろんな意見が出ているようで、やはりお金の問題はしっかりとこの仕組みとして、しておかないといけないということでもあります。これが結果的にはエレベーター RA を持ち上げていくベースラインになっていくと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。はい、以上でございます。

ZOOM(D2600 桑澤一郎 PDG)

私は、2600 地区桑澤と申します。二つのセッションを通じてですね、もう今、既に皆さんの方から発表ありました通り、やはりロータリアンと RA のコミュニケーション不足、また RA のですね、ロータリーの理解度、これはまず根本的に解決していかなくては行けないだろうということですね。



それとガイドライン策定に当たっては、当然そのガイドラインの策定委員会みたいなものが必要になってくると思ひます。どなたかがおっしゃっていたように、ロータリーとローターアクトと半々ずつぐらの委員会を設けて、作っていく。当然ガイドラインですので目標と手法をガイドしなくては行けないと思ひます。

最初にローターアクトの方の挨拶にもありました通り、独立性って一体何だということの議論をいたしました。独立性とはですね、先ほど白鳥ガバナーからも話ありましたように、まず金銭的な部分の独立が必要になってくる。

あともう一つはですね事務局。今結局物理的にクラブ経由ロータリークラブ経由でいろんな情報が入っていくここが一つ独立性を阻んでいくものであると思ひます。

あとは、やはり補助金が見える仕組みをきちんと作っていくのだということ。その補助金についてはですね 2660 の延原パストガバナーのお話の中に、これ皆さん既にご承知の方が多いと思うのですが、ポリオイベントをやって自分たちで寄付金を集めて、そしてそれを次年度の地区補助金として使えるような仕組みを作って、今年の活動費に充てられる。これが一つ補助金については独立性であるということですね。これロータリーが主導をして、RAC にアドバイスをしながらイベントを挙げて、うまくいったという事例です。

こういったものも一つガイドラインの中に、そのどういうふうにならにそういった手法を教えるかということも当然入れていかなきゃいけないということになると、独立性というのは大きく金銭的な部分、補助金が見える部分、それから事務局をどういうふうにならに運営するのかという部分、こういったものについて目標値を定めていくことも大事です。

その上で、やはりローターアクトへの教育プログラムというものもきちんと充実させていかななくては行けないというお話で、一応まとまりました。以上です。

ZOOM(D2700 RAC 地区カウンセラー 安増 惇夫 PDG)

はい安増です。2700 地区です。

5地区で話をしたのですが、たまたまですが、ローターアクトが 150 人以上から 250 人ぐらいまでの地区が 3 地区ありまして、5地区の間でそれぞれどういうような状態になっているかを報告していただきました。非常に参考になりました。

地区だけでそれだけのローターアクターを管理するっていうことに対しては、参考になりましたので、それは、個別にそこの方から習った方がいいのではないかという気もします。



最後に、私の方 2700 地区ですけども、2700 地区も 19 年から 20 年にかけて私が研修でリーダーをしとったものですから、そのときに RA に携わって、うちの地区もやはり行き詰まったのですね。そのときにやっぱり大学主体の RAC と、それからクラブ提唱の RAC に関しては全く問題なく活動し始めてたのですが、以前からあるようなクラブ提唱 RAC で、「1 人あるいは 2 人 3 人しかもういないので、自分のところではもう維持ができませんから廃止にします」というクラブがいくつか出てきた。

「そういうのをそのまま見過ごすわけにいかんよね」ということで、そういう人たちは、地区の RAC 委員会が支援をするというような組織にしてしまいます。

ですから例えば、1 人うちのクラブから「1 人だけローターアクターがしたいんやけど」という場合もそういう人たちもちゃんと地区の委員会が面倒見るといふうな感じに置いて、大きく分けて三つに分けてしまいました。

そして組織の中に全部組み込んでしまって、誰も落ちこぼれを作らないと、同じ均等に育てていくというふうな体制をとって、去年あたりぐらいから補助金、あるいは財団の補助金、それから地区大会への合同会議、そしてローターアクターの地区大会との兼ね合い それからガバナーの公式訪問。それから地区の組織に対しての RA 委員会の組織の中に入って来るといふうにして組織建てをしてしまいました。それで何とかうまく回っていることの報告をいたしました。

それと同時に、RIJYEM の方に出向するようになったときに思ったのですが、以前は皆さんもご存知のように青少年では RA とか RYLA だとか、IA というのは、地区がそれぞれある程度全国研修会とか言うのは、自律的に継続的にやられてたのですけれども、それを全部危機管理の観点からもあって RIJYEM がプラットフォーム化をしまして、そしてこういうようなプログラムが最近と目立つようになってきた。

RA の全国研修会もある程度やっぱりこう中身に関しても RIJYEM が少しずつサジェスションするとそんな方がいいじゃないのかっていふうになってくると、全国的なレベルのアップレベリングですね、地区のレベリングがそれぞれできるんじゃないかなといふうに変わりつつあると思います。ですから、そういう意味で、今後 RIJYEM のプラットフォーム化で有効にこういう会議が行われつつあるんじゃないかなっていふうに私は感じました、以上です。

■閉会に当たり:(D2660RIJYEM 副理事長 片山 勉 PDG)

皆さん本当に酷暑の中、お集まりをいただきましてありがとうございます。本当に活発なご意見を聞かせていただきました。

まず水野理事から RAC の現状というか、相対的に会員数が減少しているというお話がありました。要は水野 RI 理事が RAC の自立について一番初めに名古屋で会合を持ったときのことを思い出しました。あれ 2019 年ぐらいだと思いますが、執念、執念ですよ。「RAC、何とかせんといかん」といふ、そういう執念が今日に続いてると改めて感じた次第です。



次に渡辺浩子さんのモンゴルでの RAC の奉仕活動、私も写真に写っていましたが、ものすごい、精力的なのですね。勉強ばかりですわ。私達も行っていたのですが、大阪は補助金プログラムの完成祝いで、どっちかいうとお祭り気分で行ったのですが、全然違うということを感じました。本当にすごい。

いいなと感じました。

それから、能登半島地震の件で和田 RA 代表が話された中で、やはりハード面だけではなくて、ソフト面で精神的な支援というものの重要性に気がついたという。そういう話を聞かしていただいて素晴らしいと感じました。

また、エレベート RA について、RAC の地位向上に向けてという、これ非常に難しいなということで私も聞いていたのですが、大体皆さん方同じことを言われてたのが、一つは共通する目標あるいは方向性というものについて、ロータリークラブの方から何かアイデアを出していただけないかという話がありました。と同時に自分たちも含めてやはりそういうことを言うのは、コミュニケーション不足が原因なのかなという話がありました。

これはぜひやっていただきたいなという話が出たのは RAC のハンドブックを見直すべきであるという、それはもうぜひ早くやっていただきたい。現状に合った形でハンドブック見直しを是非していただきたい。そのハンドブックにはやはり定款・細則というのが、多分そこに重なってくると思います。

それから、ガバナーの公式訪問、RAC にも是非やってほしいという、忙しいので合同でもいいですよ、そんなことを言われておりました。それも一つのアイデアです。

さっきのハンドブックあるいは定款・細則と同じように、ガバナー月信というものについても、RAC のコーナーを作ったらどうかという、動画で云々というお話がありましたから、そういうものも一つ考えてみてください。

大体みんな同じ意見だったように思うのが、RAC とロータリークラブが、同じ目線で考えていないという相互理解というのが大事であるという意見が多くありました。

最後に資金集めのイベントというのがありました。これ去年ぐらいですかね、どこかの地区で言われたのですが、クラウドファンデーション、こういう使い方がありますよという紹介がありました。やはり資金集めは、若い人なりの資金集めのやり方っていうのを考えられるべきだと思います。そんなようなことが今日の合同会議の中で私自身がメモしたことであります。本当に長時間ありがとうございました。

(テープ起こし文責:RIJYEM 事務局)

(事後報告)向井様より事務局あてに下記連絡がありましたので、お知らせいたします。

第7回全国地区 RA 委員長及び地区 RA 代表合同会議参加者各位
D2720 直前 RA 代表向井 蓮

過日8月4日に開催されました RA 合同会では、グループ討議をおこないました。その際のテーマが「エレベート RA ガイドライン」の策定となっていました。この「ガイドライン」の文言につきまして、RIJYEM 事務局との行き違いがあり、わたくしの意図するところではありません。このことに付きまして、本日改めてお知らせいたします。

2024年8月21日